



ENITSUKICYI

JBUSNEN



NAGINOTOKUKO



十月四日 日曜日 晴雨

今日は起床が三十分早かった。さうして先生方は六時四十三分の汽車で庄川のダムを見にいらっしゃるのだ。集合の前に柿を一つづついたいた。じゅくしてゐてとてもおいしさうだった。朝會の前に富山縣といふのはどうして出来たのかと、福光はどうして名前がついたのか、といふ事などおききした。それは氷ほうふだめりさういふので前はふく水といつてゐたさうだ。それがすんで朝會をしてすぐ朝食になった。先生の所は齋藤先生だけだった。すんで食器を洗つて歸つて来てから一部六年の柿の授け式があった。それは半分のを又半分にしたのを二つだった。さうして瀬川さんと馬場さんにあたった。それはくじ引きだった。それが終つてから外に集合して足の先が向う方に散歩に行つた。途中で梶ちゃんやまことちゃんやをじ様にお會ひした。一本松の所を通つて、私は道で待つてゐて、齋藤先生だけ甘高師の畠を見にいらっしゃった。さうして若宿神社に参拜して休けいした。日本アルプスが白い雪をまふつてとてもきれいだった。しばらくしてから行きと違ふ道を通つて、學校へもどった。午後は川へ木や石を取りに行ったが、雨が降り出したのでせうかくていぼうまで来たが、後もどりをした。それから裁縫室で、ずっと自習をした。一部六年の人が、大きくなつたら何になれるかといふくじ

を引いた。みんなろくな物でなく、マツカアサーのおく
さんとかいせきのおくさんとかいふ物はありだっ
た。他の寮の人やおやつをいただいてゐると中根さん
や小林さんが、毎度も半分残つてゐるから取つて来るの
じゃないのか。昨日あんなにお腹がはったんだから、お
菓子を買つておけばよかつた。ぬうやましくなつちや
ぬ。などと云つてゐるのでお行儀が悪いなあと思つ
た。人のふり見て我ふり直せといふ言葉を思ひ出し
た。夕食後寮へ歸つた就寢用意の時間になつても
まだ先生が歸つていらいやうな奴だ。七時半頃にな
つてもまだたつたのであんなに教へてお待ちしませう
といつて國行さんのお母様が持つて来て下さつたふ
めしいものをいただいた。御馳走様とする。と先生が歸
つていらいやうな奴だ。急いで就寢用意にした。
今日はいつもよりおそくなつたし先生もおつかひにな
つていらいやうな奴だ。とお話になつた。

十一月五日 月曜日

今日は三日目の授業だ。

一時間目に玄関の前の日
なたで、すいこの皮むきをし
た。ふきのやうにあくが強い
ので牛が黒黒になつてしま
つた。どうんこになつてあく
たかまだあわわになつた。
全部むいてから炊事場の



バケツのごみを捨てに行った。校庭のすみにある山の
ふもとまで行った。バケツのごみをあけるとそこへくさん


 眺めつつ

たがまだあわめうなめた。
全部むいてあり牧草場の

バケツのごみを捨てに行った。杖庵のすみにある山の
ふもとまで行った。バケツのごみをあけるとくさんてくさん
てたまらなかつた。平松さんと鼻をつまんで、棒できれ
いに落した。それでもなかなかきれいにならなかつた。
歸つてから、みんなのやつてゐるやうに、ずいさこ一本づ
つ通して、わうてあんだ。見る見るうちに出来てしまった。
吾門先生が自轉車で歸つていらつした。

お習字は、エ夫力作虎成のあけいこをして、後でお清書お
たいにしてお出した。地理は、阿蘇山、霧島火山帯につ
いてしまった。地震のお話もお聞きた。櫻島の火山は、
はれつして、おほすや半島にくついたさうだ。面白こ
には、阿蘇山の所は、奥中に、うよこんと高くなつて、そこか
らふん火してゐて、まはりには、南に、二十四キロ東西が
十八キロもある、廣野ださうだ。さうして山のけいしや
の所は、ぼくちくをよこゝるさうだ。ぬも、度々こに行
つて見たいと思つた。音楽も、お習字をした。お晝食を
他の寮より少し早くすませ、食器を洗つて来て、寮へ
歸つて、すぐ福光駅に、國行さんを送りに行つた。今下
りの福光を出たばかりだ。た。貨物列車と客車と
両方だつた。國行さんを送つて、すぐ寮へ歸つた。

おやつに、この間森田さんにいただいて、大事にだいて、ねた
柿をいたいた。先生が、さつまいもをふかしてもつて来て下さ
つた。ほん、ほんして、とてもおいしかった。

夜日記を書いてゐると、急に停電した。早くつめなにかしら
などと言つてゐると、柿内先生がいらつした。さうして

昨日の様子をいろいろとお聞きした。温泉にまだ生まれてから一度もはいったことがないので、歸るまでに一度はいりたいと思った。それから少しすると、茂木先生や近藤先生もいらした。そうして、茂木先生に四谷かいだんやろくろ首のお話を聞きました。

なめなか電氣がつかないもので、就寝用意になった。

十月六日 火曜日

今日は四日目の授業だ。

お裁縫の時間は、四年生の所へ行ってきた。先生がゆびぬきに名前をつけて下さった。背中のひだの仕方を説明して下さって、ぬいは、どでろめしまつをした。三つ折縫ひだったが、食器袋の時より



ぬひやすかった。雨もりかして、ホタリホタリとしづくの落ちる音がした。圖畫は自習なのでお裁縫をしてぬる男子が、國語をするめり來の。と言ひに來た。そうして、お母さん入城をお習ひした。この詩は、とてもいいのだが、今度してはいけなかった。のであんたんにして終らせた。ちよつと見ただけではお母さんが作ったやうな詩でないやうに思へるが、いと子よといふ所でお母さんが作ったのだといふことがわかった。理科は、自習だったが、私は算數をして、加藤先生に見ていただいた。

午後は、寮へ歸った。さうして日記を書いた。あやつに日

理介は自習のため、私は算數をして、加藤先生に見
ていただいた。

午後は寮へ歸った。さうして日記を書いた。おやつに日
記を書きながら柿をいたいた。じゅくしてゐてど
もおいしかった。その反對じゅくしてゐても皮のしぶいの
もあった。夜本田寮へ私達が行かなくてはならなくて
明日荷物をまとめてあさって引越するといふこと
をお聞きした。せつかくなれたのに他の所へ行くのはい
やなので氣がむしやくしやくした。さうして何だか
悲しくなつてしまつて涙がでて來たが、こんな弱い心で
はいけないと思ひなほした。

夜はいつもよりお話をたくさん讀んで下された。
このお話も明日で聞きのも終つたと思ふとつまらな
くてつまらなくなつた。さうして何せ本田寮
が中野寮へ行かないのかと思ふといふさう氣がせ
やくしやくして眠れなかつた。

十一月七日 水曜日



朝學校へ行く時、今日は
荷物をまとめたりするの
で道具を持たずに行つた。
朝食をいただいた。外に
並んでゐると、茂木先生が、
午後まゝあることにして、
午前中は授業をしますか
ら、お道具を取りに歸りま
せう。とあつて、寮へついで、急いで荷物を取つて來た。
四年生は寮に居るので、私達だけ學校へ行つた。

國語は船むらの火をお習ひした。これは前本當にあつたやうだ。次の理科は算數をした。分數のやうな問題をやうた。時間が終ると加藤先生が五年生は本田桑の作業がありますからすぐ行きなさい。とおっしゃった。すぐ外に並んで行った。はいると二年生が机をとりかこんで寒い寒いと言つてゐた。

二階へあがつて先生の本箱をうつしたり、本を整理したり、あやその他の物を整理した。それからきぬいにはいたりふいたりしてゐるうちに晝食の時間になつた。急いで手を洗つて外へ並び學校へ行つた。午後は寮へ歸つて日記を書いたり、それから自習をした。出發用意になつて下へ降りて、くつをはかうとしてゐると、梶ちゃんがあひの上に油であげたものを乗せて、私に「取つて下さい」と言つたので困つてしまつた。一ついたたいて田中さんと先生に言ひに行つた。さうして板の所へ腰かけていただいた。手に油が澤山ついて光つてゐた。又少しするにあひの上に乗せて「つづつ取つて下さい」と梶ちゃんが言つた。丁度そこへ阿部先生が歸つていらつした。雨にぬれてひざの下あたりからびしょびしょになつてゐるとても大変だつた。並んで先生をお待ちし



て居ると先生がいらつして、本田桑へ行かなくて

並んで先生をお待ちし

て居ると先生がいらっしゃって、お田舎へ行かなくてよいことになったんですって。とおっしゃったのでうれしくてうれしくてたまらなかつた。さうして、衆山先生にだきついてしまった。學校へ行ってもうれしくてお裁縫室までゆいゆいさわぎながら飛んで行つた。みんなびくびくしたやうな顔をしてゐた。夜寮へ歸つてから、三班二班一班の順で、お風呂にはいった。六人づつはいつて、八百谷さんはおはひりになりなかつたので終に四人残つてしまった。さうして、幾木先生とはいつた。とてもよいお湯だった。ぬまきを着て、急いで二階へあがった。ゆづめをしないうちに電氣を消して、床にはいつた。

十月八日 木曜日

朝食がすんでから、荷物を圖書館へ置いて石田先生について車を引こまき運びに行つた。校門を出ると先生が、車に乗つてもよし、とおっしゃつたので乗つた。小さい方から四人だった。石ころが澤山ころがってゐる所はがたがたしてこはめつた。途中で大きい人と代つた。さうして西尾寮の前でとまつた。それからは大きい人もをりて、綱を三本つけて三人づつで引いた。左に曲り右に曲つたりして、桑山に行く道と分かれた所に來た。一部六年の人が一束を二人で重さうに持つてゐた。車にたくさん積んで又車を引き出した。曲る時はわざわざ遠まはりをした。



西尾寮でまきを一束づつ倉庫へ持って行つて
 は順じよよく續んだ。二度目に又引ぬうとする
 と石田先生が六年生と数れにおしやうたので仕
 方なく變つた。待つてゐるとリヤカー組も來た。
 六年生がもどつて來たので薪を積まうとする。と
 みぞれが降つて來た。始めはそんなでもなかつたが
 だんだん大降りになつて來た。車をそのまゝにし
 て急いでのき下へ飛び込んで雨のやむのを待った。
 どうやらやんだので薪を續んで引き出した。
 後めりリヤカーももう一つの車も續いて來た。
 薪を倉庫に入れから學校へ歸つて圖書館
 で日記を書いた。一度お晝食頃喜門先生が
 呼びに來て下さった。お食後に柿を二つづついただ
 いた。午後は午前中四年生が荷物を置きかへて
 下さったのできちんとなほした。それから机を持
 つて來て日記を書いた。おうちの方がお火鉢を入
 りて持つて來て下さった。
 机でかこんで代りあつて留
 らせていただいた。手がどて
 も暖くなつてめじかんてぬ
 たのもすうかりなほしてし
 ました。出發用意になつた
 ので灰をかぶせた。夜歸
 つて來るとすっかり火が消
 えて所部先生がブーッ火

えて阿部先生がブーッ

をおこしていらつした。私達の所のおおこして下さったのでとても暖められた。さうして、少甘の友を讀んでいだいた。と、まも面白い讀め方だった。

十月九日 金曜日

朝下の方で、阿部先生とあひびになる堀先生のお聲に目がさめた。さうして、今日はお天気もいいやうだから、立野ヶ原へ行かう。とおっしゃった。少しすると、米山先生が倉庫のめざのこでいらつした。阿部先生が一人言のやうに、まだ起床にならぬいなあと言っている。さうした。しばらくそんなことを言っている。さうした。起床になった。さうさ、窓をあけになった。ままたまなので、かん布まきつこの時、いつもより寒かった。洗面めり歸って来てから、ムツクサツクや行軍の用意をした。

學校へ行つて一度お粥を運んでから、水筒にお湯をつめた。おべがたうをめてから、境内に集合して立野ヶ原に向った。さうして、比賣神社といふ所から二三年に別れて、私達は東太美村の方へ行つた。農業會の前を通りぐちぐちの道を歩いて神社に着いた。

もう十時で、ここで十分間休けた。ちよつとしたかと思ふともう出發になつてしまつた。そこからしばらく行く。と、影辻さんのおぢいさまがいらつした。さうして又、どんどん行つて大根畠を通つて、少しこたぬの所へ来た。ちよつとした廣い所でお晝食になった。お日様を前に受けてゐたので、背中かつめた。少した。少しすると先生が、バカ物を持って集合。とおっしゃった。

た。すぐ並んで六年生の男子がう一羽になつて、ぶちやぐちやな道を通つて大根畠へ来た。さうき男の先生方がお抜きになつたのを束ねて置いてあつた。一束の前に一人づつ並んだ。さうしてそれを持つて又もこの場所に歸つてきちんと入れかへた。歸りは行きよりも早く思へた。もうちき神社といふ所で、二三年にあつた。宿地先生はのんきに、晝ねをしていらつした。神社でお大根をぬきな車に乗せて大男が引くことになつた。途中いふいふなことをはなしてゐる。さう高名橋に来てしまつた。さうして土手の所を廻つて寮へ歸つた。

持つて歸つて来た物をぬきなしまつして、めづり、日記を書いた。先生が柿を三つづつ下さつた。めは、はうし、いのでたぬも小さめつた。少しして先生がどこかにいら、しやつたおるすに百合子さんが、さうまいもの天ぷらを持、て來て、つづつ下さつた。そこへ阿部先生や茂木先生が歸つていらつした。夕食の時、牛肉と大根とじゃがいものお煮つけがあつた。柿もあつて、とてもおいしかった。二つで一つの方は、ずいぶんごまがふいて、おて、真黒だつた。夜歸つて、めづり、ゆっくり休んだ。ダレー、ケニが、だんだんめは、いさうになつて來ると

ころをよんでいた。いた。



十一月十日 土曜日

今日は休養日だ。たゞ午前中四年以上の井子は西尾寮へ行って、すいきの皮むきをした。さうしてそれを六年生や先生やおあめになった。一番後にごみを集めて山にしてをいた。それから寮へ歸つて日記を書いたためてしまったので一生懸命においつくやうにした。

少ししたかと思ふに、もう出發用意になった。午後はお茶で、日記をつけたり、理科の日記をつけたりした。先生がのりのびんを持ってゐる人はいつか入れて来てあげますとあつしやうたので取につけてをいた。さうして足の爪を切つていた。おやつに、さつまいもをいた。今日先生が立野ヶ原へ行くつもりで、お切りになった。みづけも二つづついた。とてもめづかしい。その反對にさつまいもはとてもあまかった。梅谷さんのまじりが持つていらつした榮養ざいを飲んだ。すこし甘いやうだったが、はにくつて困ってしまった。夕食の時少し

ぶりにおつゆの中になげい
皮がはいつてゐてとてもお
いしめった。それにおいもの
はいつた御飯だった。お
腹がいつぱいになった。
夜たなの名札をつけた。

十一月十一日 日曜日

今日は日曜日にで全教体
操のある日だが先生方の



お仕ごとの都合で、五六日は、ずいきのがはむき、五六男は、小いも干しを西尾寮でやった。昨日よりよくむけなめった。みんな大きなのであまいのばかりだった。

むけてからぬきも上手になるやうにあんだ。どうしても先生や、六年生のやうに上手にならなめった。それから大根の葉やずいきの葉などを持って學校へ行つた。炊事場にそれをおきて行くところ、さけ御飯のいいにほひがふんとした。それからお裁縫室で、あみ物をしたり本を讀んだりしてお晝食を待った。

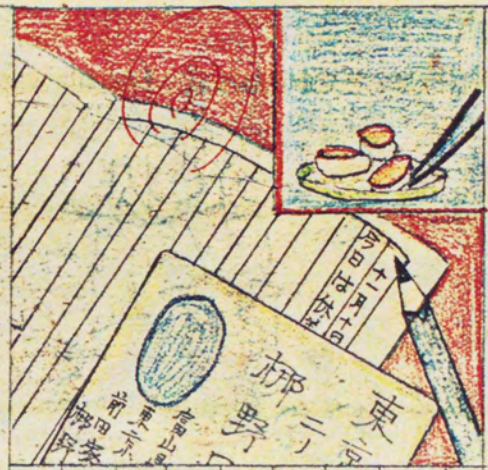
時計がをくれてゐるので、十一時十五分頃になるともう運んで来た。とてもよいにほひがした。さっきぬき達がずいきの皮むきに行くと、時柳さんが知つてゐたさけがはいてゐてもよいしめった。おうちの人はこんなごち走はいただけないだらうと思ふところ、こちらへ来てゐる私は本當に幸福だと思つた。

午後歸らうとすると、雨がひどく降つてゐるので小降りになるまでお裁縫室で待つてゐた。我々先生のそばであみ物をしていつしやる所を見てゐた。二時二十分位前になると小降りになったので、寮へ歸ることにした。いやだと言ふ人やそれがいと言ふ人とあつた。歸つてからすぐ日記にとりかめった。あみ物をした本を讀んだりぬきをさうつしてゐる人などもあつた。出發用意近くなつてやつと昨日のまで書き上げられたので、おうちへの楽しいおたよりを書いた。途中で出發用意になつてしまった。

途中で出發用意になつてしまつた。

學校に行くともう他の寮は全部來てゐた。お教縫室に行くとい根の煮けにぎりすし御飯が置いてあつた。柿もあつた。御飯にもあすしの残りひがはいてゐたらしくあすの味かした。あすしの上のおさしひもとてもおいしかった。柿も甘かつた。寮へ歸つてから書きかけのはがきや日記を書いた。

十一月十二日月曜日



朝食がすんでお掃除をしてからすぐお米運びに行つた。本田寮へ行くとい二年生が又机をおこんだ。おた。一時間目は自習だつたので日記をつけた。地理は南九州の産業をお習ひした。鹿児島は七つまいもがたくせん取れて、東郷元帥や西郷隆盛はきつときつまいもでふつたのでせう。とあつたので笑つてしまつた。それからきつまいもの御馳走の筈になつた。喜門先生は大學ポテトがふすきたさうだ。あまりおいしさうなことはありなので、また二時間目だがお腹がすいてしまつた。算數も理科も自習なので日記や算數をした。せつめく待つてゐたのになつたので、つまらなかつた。お昼食の時、おつゆめの中にいぎの葉おはいてゐた。それをいただいて少しするとい、のどが痛くなつて魚の骨でもさしたやうにちくちくした。先生方もさうのやうだつた。おつゆだけすつて、おみを残した。

午後は寮で日記を書いたり算敷をしたり、手帳を作ったりした。玄じ様が火鉢に火を入れて持って来て下さった。お八つに昨日の柿の半分のをいただいた。一日をいたので、じゅくしてとてもおおいしかった。出発用意のまぎはまぎで、お火鉢に當らせていたいた。とても暖くなった。
夜は勉強をしないで、あみ物をしたり、先生に母をたづねて三千里を讀んでいた。感心なしか、お八つはうな話だった。就寝用意が七時半にのびたので、何となくうれしかった。寝場所を二つたいた。



十一月十二日火曜日
今日は百日の授業だが、あまりよい天気で、授業をするのはきいので、寮金で行軍した。お八つは柿の先生と、小矢部川の左岸を下って、行って土手の所で、太陽に顔をむけて、ごうく會に、どんなのをしたうよいか考へた。そう、豆の煮えるまでは、面白いか、お八つは長めった。赤熊と黒熊のは短くて面白さうだった。十一時半頃になったので、そろそろ歸り始めた。もうどの寮も歸ってねた。少いお食事、玄早くいたいて、福光駅へ、十二時五十八分でお歸りになる。お八つたちのお八つ様をお迎へに行った。行ってしばらくすると、まことちゃんが、兵隊を、お八つ様と、お八つ様の間には、さまれで、うれしそうに、にこにこして、お八つ様にあへるのか、うれしいのか、もつと、ふりふりでお八つ様にあへるのか、うれしいのか、お八つ様をお迎へに行つた。

行はうくするとまことちゃんが兵隊をい様とを
い様の間にはさまれてうれしそうににこにこしてね

た。もつと久しぶりでお父様にあへるのかうれしいの
だらうと思った。私も東京駅へお父様をお迎へに行っ
た時もうれしかった。こんなことを思ひ出してね
ると百合子せんとは様がいうしやうた。日なたぼっ
こをしてぬるとやがて高田の方より汽車が来た。さう
して澤山の人を降ろして。又城端の方へ行つてしまっ
た。ぞろぞろと列のやうになって。出て来る人の中にまじ
ってまことちゃんが女ど様に肩車をしていた。たまに
おら出てその後からまことちゃんのお父様がいうし
やうて色々方方に御あいさつをしていうしやうた。ぬき
ました。それから學校へ行って。ずいとの皮むきをし
てあんだ。たいぶなれたので。お母さんよりはうまく
あめた。それからずいとお裁縫をしてみた。

夕食後歸つてからひな祭り。白百合のお部屋にぬ
くなつて柿をいたいた。それから少しすると今

おち歸りになったまじ様のお土産の乾パンとコ
ンペイトーをいたいた。とてもおいしくてコンペー
トも甘かった。

十月十四日 水曜日

朝食後私達の列の人は
お米運び平松さんの列の
人は、お米も運んだ。
今日からお米と半分づつに
お米もはいるのでうれしく




てたまらない。手がつめたくてかいておいて何も出さない。それに一時間目がお裁縫なので、針も動かさなく待針もうてなくて困ってしまった。四年生はうれしように、前かけの布をたってゐた。國語は鉛筆の火のわけを調べた。途中で時間が経ってしまった。

國史は居地先生がお留守なので自習になった。算数は66ページをした。みんなはきりわりないやうなので同じ所を二度も三度もくりかへしたので、じれったくなってしまった。午後は寮へ歸って先づ日記を書いてから一時間目にはかどらなまったお裁縫をやった。ちっとも手がかどかんでおないやうで、どんなにかどった。それくらいはうら、鉛筆をけづったか、そればかりおるのか、あんまりおこしてしまった。夕食から歸つて来る頃また五時半だった。上であのものをとてぬる。このころちゃん達が「ゴージャス」するものおいて、と言ひにきた。阿部先生もいけいとおし、またので行った。しばらくしなめたので、うれしいやうな気がした。飛ちゃんばかり勝って親がなめくまはうなめた。七時頃になつたので上へあがり又あみものをした。就寝用意になつてからもう布を出していただいた。



おちんとした子でしつかりと書けておる。

たいた。

なつてあらもう布を出してい

みちんとした字でしつかりと書きつけておき
繪と字を少し大きくしてこらんとい
算数がすうですわ一生懸命あやうさい
もかし感想をいふとますますうりあうよ

十五日 検

十月十五日 水曜日

今日は三日目の授業だ。朝食がすんでから、五年生の
主人はお米運び一部六年も手傳つてさうまいもを運んで
下さった。私達はみんなの歸るのをお裁縫室で待つてね
た。さうして準備室で本田先生の三年かうの検査測定を
た。三部五年の人はたいてい合つたといふので、私もへつて
おるのではないかしらと思ふ心配だった。
そのうちにお米運びの人も歸つて来たので、準備室に
行って検査を計つていた。四年生は大部分ふえてへ
つた人は一人もなく、五年生はその反對へつた人よりも同じ
人はありで、ふえたのはたった一人だった。 **柳野くんは？**
午前中は授業で、午後は寮へ歸り、日記をつけたり
あみものをした。さうして様子が火鉢を持って来て下さった。
當ておるとまじまじとやがて、ちやんや、百合子さんがい
らした。まことちゃん、半ズボンでくつ下もはめた
でめただけでもこっちが寒くなつてしまった。
學校へ行くとい番びりでもう大部分はつけてあ
つた。ふかしいものおつた。あまり急いで中根

前日又太郎氏 戦争から帰る。

さんがおつゆをこぼしてしまった。心の中では「あああ」と思ってしまったが、かはいさうになつてしまった。さうまいもをいたたくとお腹がいっぱいになつてしまった。食器を洗つて歸るともうすいてしまった。

夜歸つてから、あみ物をしてゐるときは様やゆり子さんがいらつしゃつて、せあみなさんいらつしゃいとおっしゃつて、五年と四年と一羽づつになつて、大きな順に並んでお座敷にはいった。黒ぬりのおぜんがずりりと並んで白いおざぶどんも敷いてあった。電氣は明めるくまるで、目黒の分じよえんにでもぬるやうな気がした。おぜんの上には、おさしめ・てんぷらやきどりのなどの御馳走がよそつてある。その前にすわつて、あうちの方のいたたきますと言つてお箸を取つた。めづかしいものはめりで、おこはに卵のおすましますのてんぷらやき豆ふりれに山薯やおさしめなど疎開してめづかしいものはめりです。どれめら半をつけてよいめめらないうです。後で百合子さんやえは様が見ていらつしゃるので恥づめしくめたくなつてしまった。こんなに人数も多いのに、こんなに御馳走をして下さつて何と言つてお禮をしないでいいめめらないうです。このことをお母様にお牛紙でお知らせしたうどんなにお喜びになるだらうと思つた。おいしういたたいめら、おせんをすみにさげてお火鉢に當りながら、娯樂會をした。先づ追火さんの詩ぎんめら始まつた。私はちうばな中佐とあさみどりの詩ぎんをした。

大澤さんのはとても面白いのでつい笑つてしまった。

阿部先生はいつものやうに、さつまびわ山せん草木九月

金しきりしたカシヲ舞臺をした。先づ迫水さんの詩ぎんから始まった。私はたちばな中佐とあさみどりの詩ぎんをした。

大澤さんのはとても面白いのでつい笑ってしまった。阿部先生はいつものようにさつまびり山せん草木九月十三夜などだった。まことちゃんも途中で寝てしまった。

全部して終ったのは八時半頃だった。先生の二時語を聞きしなから寝た。



この合唱は、船は帆船より前野さんの歌。合唱は一寸法師だ。四時間目に又学校へ行って算数だ。午後は先生に御用事が出来たので少し学校に居たが二時頃寮へ歸った。さうして各自で自習した。夕食は三井の教室でいただいた。乾パンも七箇づついただいた。雨が降ってゐてあたりが暗くなつて来た。

先生方は町の方までお話がありになるので私達は先生より先に寮へ歸った。おうちの方がお火鉢を入れて下さった。お火鉢を圍んで百合台とひな菊で歌ふおけいこをした。就寝用意の少し前に百合子さんがふめしいもを持つて来て下さった。これは赤田さんが持つて来て

下さったのをふかしましてたからあとで森田さんにお禮を
 言て下さい。とおっしゃった。みんな森田さんのやうに丸々とし
 たのはかりだった。ふかしたてでほくほくしてゐてとても
 おいしかった。甘くて栗のやうな味がした。それをいただいた
 から、就寢用意になった。赤にはいって少しすると、阿部先
 生が歸つていらした。

十一月十七日 土曜日

朝食は全部理科室でい
 いただいた。百人も居るのに
 よんはいれたら思つてびっ
 くりしてしまった。

午前中は授業で振樂會
 は午後することになった。

二・三時間目は男子が寮
 へ歸つて振樂會のおけいこ
 をするので、私は自習を



をするので、私は自習を

してゐた。ロタに歌のおけいこをした。國史は途中か
 りやうした。平塚京五すませで、だざい府へはいった。

お大根のお煮つけのお晝食をいただいた。から樂とい
 振樂會が始まった。プログラムは晝食の時、宿地先生
 が黑板にお書きになった。前田寮は後から二番目だ

った。先づ西尾寮の土日間といふ紙芝居から始まった。
 本田寮はやはり歌だった。三須さんがその反對を
 歌ったので面白かった。吉波寮はいつものやうに面白
 い。彌次さん喜多さんの潮井川といふのがあった。
 私達もまねして面白いのを考へた。と思った。

それがすんでから、都田舎といふ題で討ろん會

い彌次さん喜多さんの朝井川といふのだった。
私達もまねして面白いのを考へたりと思つた。

それがすんでから、都と田舎といふ題で討論會
をした。どっちが勝つたともきまらないうちに時間か
來つてしまった。始めてなのであしきけりめたいなこ
とはあり言つて、りくつめあつた事、さういふ人もあまりい
なかつた。それから、夕食まで寮へ歸らなかつた。
さうして、萩原さんと八百谷さんと一緒に、本田寮から前
田寮に女んめを運んだ。古いおとみえて、少し上の女がこげ
てゐた。運搬、雨が降り出した。置いて先生と、寝場所
のことをおはなした。學校へ行くと、ちやうど夕食だった。
お晝と同じやうなおにつけたつた。

面白かつた。

彌次さんオ江ケラ
ゴニッパツ



十月十八日 日曜日。
今日は全校運動日だが
天候が悪いので、第六日目の
授業をした。國語は朝鮮
の田舎を終つて、お晝面を
出した。後は自習だったが、
体操の時間は、男子が音
の時間で私たちは自習な
ので、いっしょにしていた。

た。主として、母の歌を習った。やさしさ、お晝ま
のやうな歌だ。私は、この歌が大好きだ。終に、本の始
めの方から一通りやつた。お晝は、ふめいものとラッキ、たつ
た。とてもおいしかった。午後は、寮へ歸つた。辻藤先生
がいらつして、耳あめを取つていただいた。この間、茂木
先生にしていたいた時は、あとが痛かつたが今日は、そめ

さん、ういね。

對めゆくてもづむづしてゐた。だが今までよりよく聞え
 るやうな気がした。夕食後歸りかゝる順番にのみ洗ひ
 をした。始めはしたくなかったが、氣持がよいといふ人がある
 ので、することにした。いよいよ私の番になった。すむとき
 ふに頭が軽くなったやうな気がした。それかゝる順番にお
 風呂へはいり出た順にゐた。とても氣持がよかつた。

十二月十九日月曜日



今日はお養日だ。午前中
 は五年生だけひな祭に集つ
 て地理の勉強をした。火鉢を
 真中にはさんで、時々手を暖
 めた。なまなめ出来ないうち
 に出発用意になった。お晝
 はさつまいもだった。くづいも
 が多くはいそゐた。

すぐお腹がすいてしまった。午後も寮へ歸つた。さうして午
 前中のつづきをした。おうちへのはがきも書いた。それに
 は十五日の御馳走のことや、いろいろおうちの方が作つて
 下さったおやつのことなどを書いて、お礼状を出していた
 だんやうに書いた。残った所に御馳走の繪を書き並べ
 た。おやつに柿を二つづついただいた。今までのよりじやく
 してゐるやうだ。た。それを書いてこたつにあたり
 少しすると、百合子さんが、天ぷらを持って来て下さった。
 さつまいもだった。ニせれづついただいた。手に油が沢
 山だったので、まるでクリームやうに広々した。手が少し

光って来た。それをいただいてめり、すぐ出発用意にな
 った。夕食後、歸つてのり又五年生にさうひな祭の部

三つまいものたつた。二つに一ついたいた。牛に油が流
 山ついたので、まるでクリームめやうに成った。牛が少し
 光って来た。それをしていただいてめり、すぐ出發用意にな
 った。夕食後、歸つてめり、又五年生だけひな菊の部
 屋でこたつにあたりながら、柿内先生に地理を教へ
 ていただいた。さうして、瀬戸内海ではどんなことをす
 るかとか、北四國の産業など、頭に入れた。さうし
 て、明朝出發用意になる少しの時間に讀んでみ
 ませうと先生がおっしゃった。それからすぐ床を敷い
 た。お話を聞きたくなからう寝た。

十一月二十日 又曜日

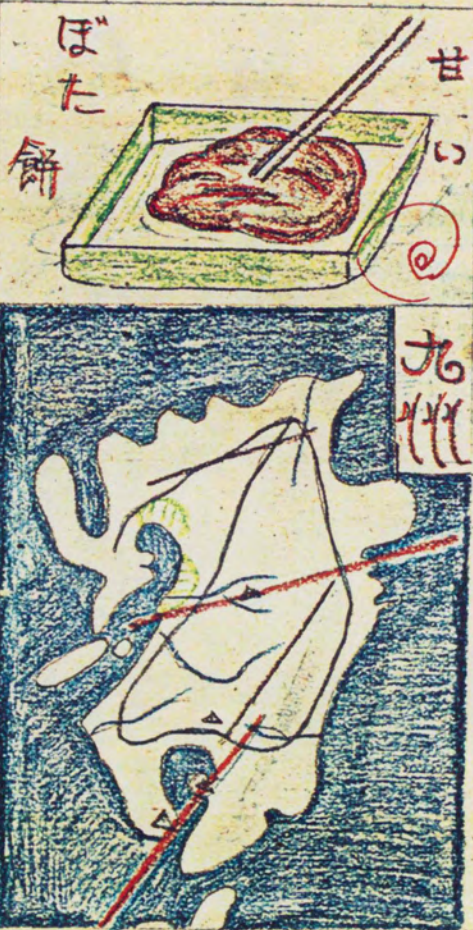


十月二十日 又曜日
 今日、昨日おっしゃったや
 うにおまたへ行軍した。
 おべんたうはいつもとちが
 った。さつまいものふかしたの
 だ。境内へ集合して出發し
 た。出發順じよは、三廿六廿
 五廿四廿二男、四男、五男、六
 男の順だった。一番先頭の三
 廿は、道安衆内だった。杉浦さんのおうちの前を、桑山と反
 對の道をどこまでも、鼻すく歩いた。しほりくすうと、雨
 側が山になって来た。山のおがり口で十分間休んだ。暑
 いので、四枚着てゐたが、二枚脱いだ。山にはいつと日影
 が多めった。途中で、石切場を見えた。そこをくぐると、の
 ぼってやつと目的地に着いた。頂上でもなさそうなの
 で解散して、鳥山や石切場を見に行つた。鳥山には
 いると一つの小屋があった。鳥かごの中ではめはいくつ鳥

達がさあづつゝゐた。そこを見て少し行くに、木と木の間に
 にかすめあめが張りめぐらされて、一羽づつ二ヶ所にひっ
 かかつてゐて、はたしてゐた。なんだめあはれさうな気が
 した。そこへ中學校位の人が出て来てきつと首をしめて今
 まではたしてゐたためところして羽をむしり出した。見て
 ねても気味が悪くなつてしまつた。そこを出て、今度は反対
 側の石切場を見に行つた。丁度今新しいのをやり始め
 ていらつしやる所だつた。石とも思はれないやうに見て
 ゐるといふじん出来てゐた。もう一つの所へ行つて、見學し
 た。始めたばかりだつたが、十分め十五分するともう出来
 あがつてしまつた。私達だつたり一日あつてもできさうも
 はいのにと思つた。そこを見てあら日あたる暖かい
 所で、あさつめあべん當をいただいた。はるめめなたに
 北アルプスが見えた。つる見も黒く光つてとてもきれい
 だ。その手前にはたて山が見えて、男に生まれてそこ
 へのぼらないといひお嬢さんがもうへないといふ越中とい
 つてゐる男山がひよこんと出てゐる。あべん當をいただい
 て、かた付けると、丁度集合になつた。福光で鳴つてゐる十
 二時のサイレンが小さく聞えた。くたりは、とても歩きやす
 しげんとあけ出してしまつた。桑山へ行く道に似てゐる
 道を通つて杉浦さんの所へ来た。だんだん各寮に
 別れて一番に寮へ着いた。うがひをして上へあがつた。
 おやつに乾パンを三つとコンペトをいただいた。しばらく
 すると百合子さんがボールにぼた餅を持っていらつ
 した。さうしてあべん當箱に一つづついただいたお箸
 が無いので、太いお箸でいただいた阿部先生も歸つて

すると百合子さんが、ボールにぼた餅を持っていって
しゃった。さうしておべん當箱につづついたのでした。お著

が黒いので、太いお箸でいたいた。所部先生も歸って
いらして、やうて、兵隊さじ様といふしよに、ござして、りうし
やうた。甘くて、とてもおいしい。こんな毎日、
やうにおいしいものをいた。だいて、お當に感謝しなけれ
ばならぬ。と思つた。夜、寮へ歸つて、おら九州の地圖
を三四回書いて、線うを入れ、川を入れたりした。明日
のしけんには、うんとがんばらう。と思ひながら寝た。



十一月二十一日 水曜日

今日第二日目の授業だが、六年生は、大根の追肥。五年
生は、薪運ばん倉庫の清掃だ。成りには大根島の見覺
た。だが、船達だけで、倉庫の清掃をした。十俵の他に、
大中小のさつまいもが、ごうごうしてゐた。たは、うを、一ヶ所に
まじめたり、さつまいもを、きちんとつめたり、はいたりして
きれいにした。さうぼりした所で、學校へ行き、圖書館で、日
記を書きながら、柿内先生に、南海の合唱を讀んでいた
た。男子も聞いてゐた。

午後は寮へ歸って日記を書いてから算數をした。
してゐるうちにだんだん面白くなつて來た。

夕食は御飯とふかしもだった。お腹がはうて寝て
しまった。夜寮へ歸つてからゴタツに當つて、南海の
合唱を讀んでいた。それから寝て來た。おれも
いた。さっきさうして、おれもなにお腹がはうたのだ
らうと思ふ。馬鹿々々しくなつてしまつた。

夜町子のお話を読んでいただいた。おれも町子のおう
心の清い人になりたい。

十一月二十二日



今日は前田寮の五年女子
がお野米運はんの番だ。
今までと違つて端城へ行
く。途中の山田村農業會
だ。朝會後五時だけでは
無理なので、四五年全体
で行く事になった。一度寮
へ戻つて、レインコートを着て、
すぐ笠をかぶつて學校へ

行った。西尾寮の人はもう來てゐた。居地先生がリヤカー
を引いていらつした。その後、續いて行つた。さうし
てリヤカーがあれば、半分位續めるから、私達は八
キロ位を、持たないわね。とか。リヤカーを引くのは、う
度五時が、いよいよ。とか。話ながら歩いた。ふみ切を渡つ
つ、江村へ來た。雨はやんで、だんだんよいお天氣に
なりさうだ。

この間、休んだ所を、主に由つて、國民學校の前の農業

つ吉江村へ来た。雨はやんでたんたんよいお天気に
なりさうだ。

この間休んだ所を左に曲つて、国民学校の前の農業
會に來た。軒下に雨にぬれた大根葉が置いてあった。
少し中にはいつて休んだ。さうしてリヤカーに、青いずぬき
すぬき蓆、間引き大根などを積んだ。何しろ四十人
んと思つて來たのに、百三十人だったので沢山あった。
リヤカーに沢山積んでそれからリュックサックに積み込
んだ。丁度そこへダットサンが來て、運轉手さんが福光町
へ行くのなりこの上へ乗せてあげようと言つてやつた。
さうして私達に持ち切れないのでおんなを乗せて下さつた。
本當に有がたにと思つた。みんな持つておろはうけうに
なつて歩き出した。四年生の秋葉さんは先頭になつてさ
こと行つてしまつた。私はあまり始めから急ぐと後が
つかれるので、ゆっくりと歩いた。ダットサンにも追ひ抜か
されて、宿地先生の自轉車リヤカーにも追ひ抜かされてし
まった。手がつめたくなつて感となつた。神社のあたりへ來る
と六年生が、おうるんに來て下さつた。だが後の人でもつに
大変な人があるもので、いすと言つて炊事場まで持つて
行つた。廊下には、お式があるらしくて、二年が並んでお
た。そろそろとやつとほつとした。手を洗つたりしてお書寫
まで理科室で休んだ。着物のぬれた人は寮へ着返へに
行つた。午後は、すつと寮へ歸つて自習をした。夕食の時
さつまいもがあつて又食べてしまった。宿地先生が、六年生の
母の方達は、明日ずいさあんで下さい。それから五年
生もお上りですから御苦うう様です。おして下さい。と
おしやつたのでおめしくなつた。

随分大変いには、御苦うう様です。

十月二十三日木



今日昨日宿地先生があらしゃ
った通りすいきの皮むき
やすいきや大根葉の干
せるやうになんだりした。
それまで少し時間がある
ので、先生の廻りで神谷女し
たりして待つてゐた。わあが
死たのですいきの皮むきを

した。面白いやうにどんどんむけるのですいぶんはか
どった。三部六年の人が見ながら、すね分をそいなあ
と言つて見てゐるので何でもた見ただけではさう思ふが自
分で見ればおろくなると思つた。すいきが屋部あめて
から次に大根葉をあんた。すいきに反對にとつてもあめ
やすく早く出来た。だんだうなはをなふのも出来る
やうになつて来た。出来たのを三木さんがきりけに並べ
てゐるのでおろしくなつてしまつた。屋部してかりきりい
にはいつきりけにふいた。今まで山のやうに積んだのが一
度になくなつてしまつて昨日運んで来たのはうしろめさう
だつた。それからお裁縫室に行つて休んでゐた。お晝
は代用食だつた。御飯前に柿を洗ひに行つた。ぐじり
ぐじりのも澤山あつた。お晝後に柿をいただいた。
とてもしぶくて口がきめなくなつてしまつた。お氣を
午後寮へ歸つてから柿を半分づついただいた。さつき
とは反對にぐじりくしてゐて甘かつた。菅村さんのすあ

父様がち迎へにいらつした。さうして菅村さんはい

午後療へ歸つてから柿を半分づついただいた。さっきとは反對にじゅくしてゐて甘かった。菅村さんのす

父様が、お迎へにいらした。さうして菅村さんはいろいろ荷物を揃へてた。私はそのそばで、先生の日記をつけた。あまり書くことがなかつた。

自動車音がする。柿内先生が「アメリカのですよ。どおしゃったので急いで見る」と、まじめな顔をされた。アメリカが二人、私達の顔をにらんでゐるやうにして通つた。その時大きな聲で「アメリカ、アメリカ」と言つたのでもしかしたらおこつたのかもしれないと思ふ。ここはなくなつてしまつた。中根さんが大きな聲で「おどろくこと教へてあげる。我木先生がおあへりになつた」と言つたので、もういじかつた。今までの我木先生とちがつて、百合子さんのやうな頭をしていらつした。夜はお風呂にはいった。ぬるずきな人からはいつて私は一番後の組だつた。柿内先生も一緒だつた。とても氣持のよいお風だつた。

十一月二十四日

今日はよいお天気なので井波行きた。この間は、まつまいものおべんたうだつたが今日は、通の御飯にお味増つけた。境内に集居して福光橋を渡り吉江枝の前を通つて井波へ向つた。熊野神社の前を

通つて小矢部川の支流かと思はれる所を通つて



ないとりふ人もあつた。

午後は寮へ歸つてからさうくざうり袋を縫った。それから又日記に書き出した。しばらくすると夕食になつた。さつまいも御飯にふかしにも大根葉のごまあへだつた。いつもだつたらうすぐお腹がはつてしまふのに、今日はそんなでもなかつた。夜寮へ歸つて日記を書いた。就寝申意の時、近影さんのおぢい様と阿部先生と宿地先生がいらしてややすみれの部屋で大根のこでいろいろお話ししていらつた。お歸りになつてから阿部先生がお酒によつて眞赤な顔で、「今度肉をうんと食はせてやる」といつていらつた。町子のお話をお聞きのなかりなつた。

十一月二十六日 月曜日



朝めう少し曇つてゐたが昨日の夕食後宿地先生がおつした通り朝食後、六年生と男の先生方で、山田村の方へ大根を取りにいりつした。お達はみんな自習になつたので、五年生は小セい方めう四人づつ高木さんへ四年生は大きい方めう四人づつ吉波寮へはの赤屋へ行った。一度寮へかへつて石けんタオル櫛などを持つて行った。幼稚園に行くと位な子供がじゅくしたせうな柿を牛に持つてうれしさうにしてゐた。平次さん一人かすんでめう

學校に歸つて次の二人と代つた達は、大根葉を

位な子供がじゅくしたせうな柿を半に持てう
れしやうにしてゐた。平松さん一人がすすんでから

學校に歸つて次の二人と代つてゐるは大根葉を
より分けた。くさつた中によいのがはいつてゐるみたい
だ。こんなにくさつてゐるのならなんであんな重たい
思ひをして持つて来たのだらうと思つた。三回たいひ
を運んだ。それから圖書館にすつと居た。しばらく
すると大根葉の六分生が歸つて来た。あまりあし
やべりしてゐたり書食におくれしてしまつた。すつとくき
んじんみたいな御飯だった。午後は寮へ歸つて猪養
さいをいたした。それから日記を書いた。おやつに茂
木先生が、埼玉縣からしよつて来て下さつたさつまいも
をふかして下さつた。こちらのこはちがつておいしく
もほくほくしてとてもおいしかった。夕食後寮へ歸つ
から明日地理をしけんの練習してゐる先生がいら
っしゃつてぎんなんをお火鉢に入れて下さつた。火がかつ
かよおこつてゐるのではちばち音を立ててはじけた。
すごいものになると部屋がすめまで飛んで行つた。
焼けたばかりのはいつてもち
いしくお餅のやうな味が
した。十位いただいた。本
當はじけた時はおどろい
てしまつた。

十一月二十七日火曜日

今日は第三日目の授業だ。

國語は月の世界の望遠鏡
で見た月といふところをみた。



ここはそんなにもづかしくなかった。次のお習字はエミカ
作完成のお清書をした。地理の時、間は昔並なので、茂
木先生が鉛筆を握って下さった。牛がめじかんぐよく
書けなかった。しけんは私達があんなに練習した丸
の地図が出ないで、わが国の農田を四つあげよ、ここあ
まりしりべつめたいのだった。お出ししてからすぐお女見
た、早く返してていたできたかった。お事は代用食だつ
た。みんなほくほくもてゐてとてもおいしかった。
午後寮へ歸つてからまだ火があったので、當つてあ
る先生が、柿を二つづつ下さった。②つともじゆん
してゐてとてもおいしかった。又日記を書いてゐ
る先生が、セツマイもをふかして下さった。



昨日と同じやうにおいしかった。夜寮へ歸つてから寮
樂會の練習をした。私が
した切り雀になつてのりを
なめてしまふ所をセツマイ
もにするこゝになつた。阿
部先生が、食べる練習だ
とおっしゃってわざわざ先
生の持つていらつしやうた
だめはづかしくてなかな
かに口に入らうれなかつた。
二三日練習してからみんな火鉢に當つた。茂木先生
がいちばんのはいつたおまんじゆを一つづつ下さった。
甘くてとてもおいしかった。

十一月二十八日水曜日

同月二十八日水曜日

二三回練習してからみんな火鉢に當った。茂木先生
がいもあんのほいつたおまんじゅを一つづつ下さった。
当ててもおかしかった。

十一月二十八日 水曜日

今日は第四日目の授業だ。國語は兄さんの説明は
どんなのだったか。國語帳に書いた。先生に明日
練習がある。と申しあげると「そんなことしうないよ
本當か。」とあつておどろいていう。しやうた。二三時間
目は自習だったので、高田先生に飛しのお話とこけい
はお話をしていた。こけいののはたぬきにだま
されたのでとてもおもしろかった。理科は算数に変わ
った。さうして70頁をやったし、ばりなかつたので
割算の二を掛算のまうかへてしまった。

書食は作用食だった。一時めうここをが使ひになると
いふので少し早めにいた。午後は療へ歸って明日こ
樂會に着る着物を揃へた。先生のおびを揃へたり
風呂敷を使ったりした。それから二三度練習してから
茂木先生はしお柿を買ひにいらした。私は日記
を書いてから火鉢に當てた。夕食は理科室で久しぶ



りに白い御飯だった。電気
がつかないので真暗になっ
た。
六時半頃から六人づつお風
呂にはいった。頭も洗ったあ
がつて来る。先生は手柿にす
る柿の皮むきをしていらっし
やうた。見るからしおさうたっ
た。床をのべてすぐぬた。

十一月二十九日 木曜日

今は開校記念日なので制服を着て登校した。六年生の
のま子を除いた組は全部制服だった。朝會にひきつ
づいて式をした。今日で七十一週年になるさうだ。朝食
がすんでから食器を持って寮へ歸った。しばらく日なたぼっ
こをしてから上へあがり又火鉢にあたってからお洗濯をした。
二枚だけだったのですぐにすんだ。あがってから少し柿の
皮むきをしてぬるの下の方がマージャンする方いらっしゃいと
あしやうたので阿部先生の許可を受けて行った。あこ
たつの上に乗せたりでとても高かった。十二時十分だったの
でそろそろ出發用意だと思つて上へあがった。すると柿を
二個づつ下さった。晝食は理科室でいたいた。又食器
を持って歸った。午後は日記と算數の國語をしてから日
なたへ出てあみ物をした。

出發用意までの時間がとても長く思つた。夕食の前に
またついていたので講堂で息ごっこをした暖めくなつ
た所できんとんやおはぎを運んだ。あすの物やなます
もあつてお机の上は御馳走でうごまいた。柿も二つ半づつ
置かれた。おはぎを食べ終る頃から先生方がいろいろ
な歌やびわなどをして下さった。石田先生はいつもの
のんきな父さんだった。御馳走様をして先生をお待ちする
間ずっとお裁縫室に居た。阿部先生がすっかりよって
いらっしゃって柿の上をまたいだり近藤先生の歌に合は
せてあどつたりしていらっしゃった。

寮へ歸つてからずみが潮にはいったので生部しめてね

ずみ取りをした。が、出て来ないのでだ目だった。

夕日は歸りがあらめだったので、すぐ就寝用意になった。

いらっしゃって柿の上をまたいだり近藤先生の歌に合は
せてあどつたりしていらっしゃった。
寮へ歸つてからすみか棚にはいったので王都へあては

ずり取りをしたが、出て来ないのてだ目だった。
今日は歸りがあつたので、すぐ就寢用意になった。

十一月三十日 金曜日



今日で十一月も終だ。午前中
は授業だった。國史は太宰
府をお習ひした。藤原氏が朝
廷につかへるやうになつてから
日茶がみたれて来たさうだ。
お者はせつまいもと、こんにく
だった。前のと少し代つてゐて
中のがすきとほつてゐてとても

おいしかった。午後は寮へ歸つて荷物の大整理をして、これ
にすみかからすみまではいてふいた。それから各自で日記
を書いた。私は日直なのでおふしひの紙にひもをつけ
た。すみかふん部屋の中が暗かつたので、もう四時十分より
ずっと過ぎたかと思つて見に行くと、五分過ぎてゐた。



夕食はおいも御飯に大
根の煮つけだった。御馳走
様の沙比前より先生方は、
行事も掃除分たんのこと
で曾儀をしていらつした。
私達は、食器を洗つてす
ぐ歸った。少しすると先生
も歸つていらつした。就
寢用意の前にかめんを三

つづつ分けていたたいへ荷物の中に入れてぬすむに取
られぬやうにした。

十二月一日 土曜日

今日から十二月だ。朝食の時刻を出て稲光馬の方を見
ると山に雪がつもつてゐた。朝食の前に齊藤先生から
火のことに着いて御注意があった。

朝食の後で今日の行事をお聞きた。今日は今までの
やうに行軍はないが太美に大根取りに行ったり、皇太
子殿下の御たんしん日には今までのない大じかけな御祭
會があるなど、たのしみなことばかりだ。

昨日目の授業だったが、算数の時間が始まって少し
すると、茂木先生がいらして、五年生の女子は東
太美へ野米取りに行くので、とあつて、途中で止
めて男子は塩取りに、女子は道具を持って一度又寮へ
歸った。それから、五時トを過ぎれば、笠をかぶって、リウ
サックや太風扇数を持って東太美へ向った。高宿橋を渡
って少し行くと阿部先生が寫生していらした。

この間より着くのがずいぶん分かったやうな気がし
た。今日はおぶだった。葉がとても大きかったが、あま
り沢山なめった。リウサックには入れると根の方だけ
しかはいらなくて葉が出てしまった。又この間のやうに茂
木先生を後にしてさうさう歩いてしまった。阿部先生の
所まで来ると黄やみどりにとてもきれいになつて本當
のやうに見えた。學校へ歸ると丁度四時、間目が
始まった所だった。國書館で孫悟空を讀んでいただ
いた。晝食は大根飯だった。甘いやうな気がした。

所まで来ると黄やみどりにしてもきれいになって本當のやうに見えた。學校へ歸ると丁度四時間目が始まった所だった。図書館で孫悟空を讀んでいた。

いた。晝食は大根飯だった。甘いやうな気がした。

あやうにめんを三つづついただいた。皮の青いのでますますはくなかった。日記を書いたりしてゐると出發用意になった。夕食後寮へ歸つてから、ぎんなんやあやの實を火鉢で焼いていた。黒こげのもあった。

あやの實もぎんなんも二つづついただいた。

十二月二日 日曜日

今日は朝から雨が降つて

ぬたので休養になった。

お食事の後でお席かへ

があった。さうして五列になつ

た。お達は、三部六年と五

年甘子の六人と田中さんだ

った。一列にだいたひ十四人づ



寒いので、こたつや火鉢におじりついで日記をろろろ

書くひまもなかった。阿部先生が葉書に、福光橋や

医王山や桑山を書いて下さった。出發用意まで丁度

八人のを書いて下さった。福光橋が一番多かった。お晝はさ

つまいにもあつた。阿久沢先生につけていただいた。

机の上が大こう水になった。午後また日記を書かう書

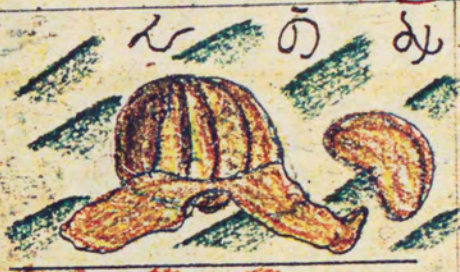
めうしてはお火鉢に座つてちつとも日記がはかどらな

った。夕食はかぼちや御飯に、大根のお茶葉のごまよ

ごしだった。御飯も甘いやうでとてもおいしかった。お

食後にみかんも二つづつあった。

夜こたつに當りながらお兄様やお姉様にのさ言葉で葉書を書いた。久米川の二一を言つてはめんたて笑った。少しの時間のやうだったかとても楽しかった。



十二月三日
今日は今度新しくなった時間表の第一日目だ。四画は自習で日記を書いたが午がつかめたので午の袋をはめつたので午のなかに思ふやうに行かす。四五行しか書けなかつた。地理は表日本と裏日本の

違ひを感じを見た。年平めはやはり裏日本の方が雨が多くて一ぱんに表日本は明るくて裏日本は暗いとの感じがした。算数は始め位はどこまであるかお習ひした。それは小数点以下のだった。たぶん通は分厘毛位だった。三時間目の終るころから私の所だけに日が當つて来た。十分休んで次の理科も算数になった。六の重さの体積を測った。一立方センチは水で一センチで測はるが何より一立方センチのは金で一番軽いのは銅だ。だから銅の下駄は軽くて歩きやすいので多く使はれてゐることかわかった。お書は最後の代用食だった。よくあぢやうにいたいた。午がべとべとになつてしまった。寮へ歸る時、西尾寮へ行って薪を運んだ。六年の運んで下さつた。長い太い大根が澤山置いてあつて今までこ

いた。手がべとべとになつてしまつた。
寮へ歸る時、西尾寮へ行つて、薪を運んだ。六年の運

んで下さつた。長い太い大根が澤山置いてあつて、今までこ
ろごろしてゐたさつまいもが少なくなつてゐた。

寮へ歸つて、榮養ざいを飲んだ。おやつに柿を二つづつ
いただいた。じゅくしてゐて、いつもよりつめたく感じた。
夕食後寮へ歸つて、二班めり順にお風呂へはいつた。
私は一番後だつた上に、阿部先生がおはりになつ
たので出たのは九時だつた。すぐデスカなん^精をづけ
てほうたいを巻き、御あいさつをして床にもぐつた。

十二月四日



國語は柿の色を讀んで
始めの四五行だけは解しやう
をした。船達も研究する時
は、喜三右衛門のやうにね
ほり強くなければよい
と思つた。國史はこの間の
つづきの世のさまをまを

る習ひした。算數は五六七番をうた。いろいろな
物の重さや、体積をくらべた。

午後は寮で日記を書いて、色鉛筆の筆箱に
ヤ代紙をはつた。なかなか思ひやうに行かなかつた。
おやつに代り玉二つとキャラメルとはうかの味のするのを
いただいた。みんなめづらしい物ばかりだつた。前のと
ちがつてあまり色が代つてゐなかつたか、とても甘かつた。
キャラメルもとてもおいしかつた。外は雨が降つてゐる

ので二時でもうす暗くて、電氣をつけるぐらゐだ
 った。丁度はり終るゝ時間になった。片付けて少こ
 たつに當つて、すぐ下へ降りた。
 夕飯は白米の御飯にお肉やお大根やにんじんや
 さといものはいたお煮付けた。お肉はなめ
 なめめ切切れなりのもあつた。だが、これもあつた。
 た。あつちの人はこんなおいしい物をいただいでゐる
 かし、ちと思ふと、私一人だけ、ただ、もったいない
 やうな気がした。夜は、ずうとあつた物をした。床に
 はいる時、毛ふをぐるぐる巻いて、巻いたので、身動きが
 出来なくなつてしまつた。面、
 十月五日、水曜日



出發用意の時、阿部
 先生が、茂木先生や萩
 原さんや野村さんの葉
 書に繪を書いて、いつし
 るつた。福光、橋本、梨山も
 じてもきれいだつた。私もあ
 んなに上手に書ければい
 いなあと思つた。
 朝食のお粥は、一ぱい目

ではいらなくなつてしまつた。おいもがはいつて行つてお
 粥まで甘くなつてゐた。國語は、口語文になほした。

お習字はこの間の工夫力作完成のお清書を返して、いただ
 いて、次の祖、先子孫美風を習つた。今日は祖先子の三序だ
 けを練習した。たうまつ二時、間目の終のサインが鳴つた。

お裁縫は、自習だつたが、五六男は一諸に、音楽をした。

て、水海になつたので、八郎がたの水をなめるに在のやうには塩からくないが、少し塩からいさうだ。痕名湖もさうだ。さうした。理科は算數をした。いつもはすぐわめるのに、今日にぬぎてちんぷんめんぷんで頭がくしゃくしゃになつてしまつた。晝食後はお湯で手を洗濯をした。よごれもよく落ちて、氣持がよかつた。五六男と二、六男の人は高岩藩の先まで、大根運びにいらつした。あやつにめたパンと、お薬とキヤラメルをいただいた。夕食の時、あつつけの中に引肉ぐらゐの大きな肉がはいつておて、とてもおいしかった。寮へ歸ると、前野「こんのぢい様とさ母様が来ていらつした。夜めめんや、あめや、ありんどうや、塩豆をいただいた。こんざつの中をこんななに持って来て下さつて、本當に着がたいことだと思つた。」



圖画の時間、五男の入が、アメリカ人が居るよ。と言つたので行つて見た。眼鏡をかけた同じやうな顔をした人が、講堂から箱を持つて来て、私達の方をふり返つたので、びっくりした。石田先生位の高さで、別に高いとも感じなかつた。

十二月七日 金曜日

一時間目の理科は、西尾寮へぬぎや、大根を運んだ。始めのうちには、汗は出なかつた。茂木先生が、汗をたらうたりして、熱い熱いと言つていらつした。のであつた。が、何回もして、ぬるぬる汗は出なめつた。が、ぼめぼめして来た。

へぬぎや、大根を運んだ。始めのうちは、汗は出なかつた。茂木先生が、汗をたうたりたうして熱い熱い

と言つて、いっしょに汗をたうた。お何回もしてゐるうちに汗は出なめつたが、ぼめぼめして來た。すんでから図書館にもどるともう二時間目も始まつてゐてそれから国語をしたが、すぐすんでしまつた。体操は、始め六年生の入學しけんのことでお誰があつた。それがすんで、風の中の子供を讀んでいたいた。終つてから寮へ歸ると、二時半だつた。みんな前野さんをおこんでいろいろな物を見てゐた。おやつはめんこ塩豆とかりんどうをいただいた。算數をしたがうらたいた。夕食に行つて炊事場の前を通ると、すきやきわやうなおいしさうなにはひがした。あんの上すきやきのやうなのに肉がはいつてゐてもおもしろい。

夜は二時間の終りから四人と前野さんのお父様とお母様と二諸にお風呂へはいつた。おみ洗ひもした。ゆづりいのお湯につかつて、たまたまへ出て、体を洗つた。前野さんとお母様がきれいに背中まですつて下さつた。又ゆづりあたたたまつて出た。上へあがつてから昨日のあめをお湯で洗ひしたのをいたいた。とてもせくて、後でどろくなつばきが出た。屏をしいて収たし、ばうくはふんから首だけだして話して



ねたがうつうつとしてしまつた。

十月 八日 九日

第六日目の授業だったが、国語だけで後は全部自習だった。国語は、元日やの俳句を、三つめいしくした。それですんでから先生の日記を書いた。茂木先生がてん子とアトニのお話を読んでくれた。てん子といふのはとてもおなまちゃんて、自分のお父さんのことをしはひなごといふ子で、アトニはびんぼうなうすの子で、お母さんは病気で可はいさうな子供だった。算数を少ししかけてお昼寝になった。午後自習だった。歸ると白百合の部屋に私の小包と大沢さんにお包が来て居た。とてもうれしかった。ひもを解いて、サヘなの首を開いた。冬の前寒帽子や、防寒手袋・足袋・帳面・ゆう半紙・着物・毛糸などいろいろの物ばかりだった。次に大沢さんのも見せていただいた。おやつにモ糸巻をした。ながらかりんとうや、お菓やキャラメルをいっただいた。すんでから箱をばった。夜も箱をばった。



今日は待ちに待っておたきうげん會だ。朝學校へ行く時何も持たずに行った。

十二月九日 日曜日

朝食後一度寮へ歸った。さうして毛布や防寒頭布やお座ぶとんを持ちリヤカーにお味増づけをせめて學校へ行けた。それから今日の日直に當った。私は小泉さんと二人でリヤカーを歸してまた、又學校へ行くともう三走りの方の座席にすわってゐた。私はしばらくく

草食後一度寮へ歸った。さうして毛布や防塵頭布やお座ぶとんを持ちリヤカーにお味増づけを賣せて學校へ行つた。それから今日の日直に當つた私は小良さんと二人でリヤカーを歸して来た。又學校へ行くともう生徒さん方が座席にすわつてゐた。私達はしばらく待つてゐた。それから二年から四期になつて講堂にはいた。山崎さんといふ上にもうゐるにすわつた。一番は志廣かりだつた。前一部六年の人がやつたのはちがつてお後でまゐるのはとても面白かつた。彼はぶすでお妬糖をなめるのだった。とても子供っぽいのだった。又しばらく間を置いて一番最後のでんぐんむしになつた。これは山伏をでんでん虫だと思つてこの歳の所へつれて行くのだった。それがすんでゐる。つと分には大人むさのを見つけた。た。やはり大人むさだけあつて少しわづらふた。やはり一番面白かつたのはぶすだつた。お草食後、りんごをいただいた一ついた。た。とすねお腹がはつた。午後は寮で葉書を書いた。めり野村さんのお兄様に東京のことやいろいろ面白いお話を聞きた。今日はお食事もおこくなり歸りもおろくなつてしまつたので、出發用意までの時間がすぬ分早く思はれた。



夜半袋をあんた。とても気がむいたので、親指まであめた。帰る時、てん子ちゃんのお話をしていた。だいた。

十二月 十日

今日は第二日目の授業だ。図画はお米運びをしたの

少しづつと終つてしまつた。地理は、富山平野を主に学習した。ここも越後平野と同じやうに、お米が沢山取れて、久米川に居た時はここで取れたお米をいたたいてゐたさうだ。算数も理科も学習した。私は日記をつけたり算数をした。とても時間の過ぎるのが早く思はれた。お林先生がもうおつゆもつけてさめぬから早くいらっしゃいどあつてくれた。急いで行つて見るにまだお裁縫をやつていらつた。廊下では早く待つて居る時、田中さんや、他の四年生の人が大きな声で、またすまないね、などと言つてゐたが、私はあまりせかすやうなことをしては先生に迷惑のぞくたと思つてたまつて待てゐた。午後は家で日記をつけてゐるおやつにさつまいもをいただいた。少しづつ食べたのでお足解で少しづつ歩いてゐた。たいた。そうしてこのもいたたいた。あまりたくなかつた。おれ先生のお土産を思ひ出した。夜就寝用意の時、阿部先生の履巻のぞで玄ぬひつけすそをあげして短くしてうんといたづりをした。お話の途中で阿部先生が歸つていらつたので、すぐすす笑つてしまつた。なかなかなあがつていらつたので、どれたくなつてしまつた。



早く寝まきお音にならなけと思ひながら寝た。

十二月十一日

お米は明日の朝が昇つてからで、お米運びの時もお米を

なつてしまった。

早く寝まきお着にならなれと思ひながら寝た。

十二月十一日

今日は朝から雪が降つてゐたので、お米運びの時もかさを
 さしてした。私はたれも相手がなれので、一人で持ったので落し
 さうになつたりして泣きたくなつてしまつた。やうと運べたと思
 へたら次には大根を運ばなくてはならなれので、すげ笠
 を六年生にあめりして、西尾療行つた。一度運んでから、お
 玄関をきれいにはいたり葉を拾つたりした。次々に重さ
 うにして大根葉を持つて来た人もみんな手がつめたり足
 がつめたりといつてゐた。國史は、おんな火鉢を取りまいて
 足をあたためながら先生にいつた事をお聞きした。
 主に武士のおこりや源や平家のことについてしうべた。



午後はお陰掃の人の荷物
 を持つて歸つてもう一度来て
 炊事場からよさを運んだ。
 それから上へあがりおこたつを
 出したり、火鉢に火をおこしたり
 して、かう日記を書いたりあみ
 物をしたりしてゐた。我々先
 生は、お風呂たきをしていり
 つしやつていても大へんだった。

お風呂の火を見て来てから、はかきをいただいた。
 おやつにかたパンをいただいた。終やいなやすぐに出發用
 意になつた。夕食後、一班的終から六人づつお風呂へはいつ
 た。出てからすぐ寝た。阿部先生は、もいびきをきかいていら

しやうた。

十二月十二日

起床前先生が、雪がつもつてぬますよとあつしやうたので、うれしく早く士時をうたないかなと思ひながらあそび洗ひに行つた。もう五時半位はつもつて人が行つたり来たり雪の道に足あとをつけて行つた。六時五分前だったので後一時間かと思ひながらあそび行つて行く。すぐ起床になつた。時計がとまつてゐたのだ。まことにやんや、後ちゃんは雪を持って来れしやうにしてゐた。たれでもかういふのだなあと思つた。學校へ行く時、またたれもめんでないところをよりながら歩いたので、町かみだれてしまつた。

朝食後今日も西尾宿から大沢さんへバケツに入れた。その他牛にまづつ持った。途中で電信柱ごとに休んだ。やつと炊事場まで持つて来た。少しかまどの所で、はがきやえんをくべては、牛をあたため牛糞をかはめした。少しあたたまってから

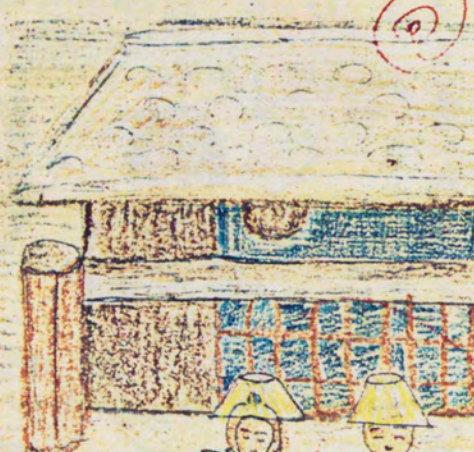
国語は俳句を四句かいて

ついでにえんた。俳句會を
すきとほつた。すけとす
ないうちにサイレンが鳴り
止まつた。お裁縫はえりぐりを
したハサミの先がきかないの
で知りすぎしてしまつた。

午後はこのつにあたり日

記をつけてかう國史をした。夕食の時、雪より白く思

思はれるやうな白米の御飯だつた。ごまあへもあつた。



で知りすぎたしまった。
 午後はこたつにあたり日
 記をつけてから國史をいた。夕食の時、母より白米の

思はれるやうな白米の御願だった。ごまあへもあった。
 お食後はありんごがあった。この間のより赤めった。

十二月十三日

朝四年生にお米運びをしてもらって、お達は、バケツで
 二回にして大根葉を運んだ。昨日よりずっと楽だった。
 二回してから、通えつらん室へ行き、火鉢に當った。めん
 な揃ってから、兒童えつらん室でもうよんではいけない本
 をもやした。さつなななから、俳句會をした。一番点
 數の多かったのは、大坪さんで、十九点だった。0点の人は一
 人もなかった。私は、びりめう二等で二点だった。
 あとは日記を書いた。ずね屋は、かどって、昨日のと一昨日の
 を書きあげられた。午後は、國史をいた。茂木先生がバ

スケートボールをなさるの、それを見に行きた人も四五人
 あった。私は行けなかった。さうして、すめれつぱいにひろ
 げて整頓した。學用品の所が、すめらんになつてしまっ
 た。夕食の時、びりが出た。齊藤先生が、そのねたんを
 おっしゃった。あまり高くて、びりした。それは、なまの切

みだけで、二円でそれに煮
 つあるから、二月以上たどお
 プレったので、びりしてし
 まひつゝ顔を見合せてし
 まった。高のだけあって、特別
 あいしいやうな気がした。

十二月十四日

今日は図書館が使へない
 ので、寮へ歸って、それとそれ自



羽星した。私は國語に熱中した。十二時のサイレンがきくに鳴り出したのでびくりしてもまった。こたつやお火鉢からはなれるのがあつた。あ、書食の時白米だといふ。ぬたう、大根のはいた御飯だ。

午後は私は國語をした。お風呂たきをしてゐる人やこたつに當つてゐる人もあつた。時々雨が降つたりもてお部屋の中かとても暗くて、こたつに當つてやうとすると暗くてよく出来なかつた。

夕食の時久しぶりにわいしあつた。一昨日はふりて齊藤先生が一つの切めが二月だといふ。たが今日はねだんをさうしやうなかつた。

三須さんが、朝御飯は白くつてくれかうだんたん御飯が黒なつたねと言つたので笑つてしまつた。



夜お風呂にはいる前に梅内先生に本校のおはあちゃんの話を聞いた。今日は頭を洗ひ番だった。風をひいてゐたので、洗はなかつた。

とても気が持がよかつた。出てから少しあみ物をしてからあふんの中へはいた。しばらく先生とお話してゐた。

十二月十五日

朝起きると、又雪がつもつてゐた。直ぐ沢山通つた。見えて、と甘つぬちとこちもあつた。

た。しばらく先生とお話してゐた。
十二月十五日

朝起きると、又雪がつもつてゐた。直ぐ沢山通つたと
見えて、と甘つめちとちもあつた。

朝食後すぐ体重測定をした。ひびいてゐた。へた
人はぬないやうだった。それから最後のお米運びをし
た。森先生が「斗」運んで下さったのでとてもうれし
かった。その上大根葉も運ばなくてすんだのですぐ客へ
歸つた。又机を出して、図譜をした。又十二時の時サ
イレニに驚めされてしまった。お晝は大根と鳥肉の
お煮付だった。三須さんが「五日間」に肉食が十六回
だから優秀だねと言つたので、まあよくおぼえてゐる
に、とびくりにしてしまつた。午後はこたつにあたつて
俳句を書いたり日記を書いたりした。茂木先生は午
前中下駄につまめはを付けていらつた。午後はず
つとお晝はをなせつた。夜は阿部先生もいらつし
やうなので、白百合のお部
屋はゆうゆうと三人だつ
た。本が見つかうないので
お話はなかつた。
何だめつまらなかつたが
すぐぬた。

十二月十六日

朝食後十分位休んでか
ら、福光校の講堂でめけ足したり運動をした。
平均たいを渡ったり飛び越えたりしゅうが、いぶつめ



たいなことをした。それからうしはらく、体操をした。二人と別から出て、上着を脱ぎゼウリを脱いだ。

次は、つな引をした。つなが短いので、二組に分れてした。三回せんで二度私達が勝った次に勝った方と勝った方とでやり一等をきめた。次に三等四等なきめ一等と先生とやった。私達が勝つて石田先生がやめとおっしゃったので手をはなした。すると先生がぐいぐいお引きになったので、私達もしかへしをした。一番最後に一等と三等と組んで二等と四等と組んで、二本のつなを引いた。二本とも私達が勝った。今日は右側の列が優秀だった。終に軽い体操をした。それから長屋の會を見に行つた。海とか山といふので油繪は何だかさっぱりわからなかつた。寮へ歸つてからすぐ火をおこした。席内先生がお友達をおつれし上へなめかっけいりしやつた。

午前中はこたつに當つてゐた。みんなで食物だけのしりとりをして二十分ぐへろ間に思ひ出さなめったら歌を歌った。

午後日記をつけてから
算数をした。わからな
いふのに、小林さんや中
根さんが大きな聲で歌
をうたっていました。

夜にそのつに當りながら、市内を歩くとあはれちやん
のお話をしたたいた。とても面白かった。一度か
ちやんを見たいなあと思った。

にいふのに小林さんや中
根さんが大きな聲で歌
を歌つてゐるのでかんしゃくさおこしてしまつた。
後でそのつらさをいふと、小林さんや中根さん
のお話をしてはたいた。とても面白かつた。一度か
らめて見たいなあと思つた。

みふあはあゝんが好きですわ。

線はひかずに真直にかける様に
今度分房の方が少し乱れてゐる。だから気をつけ
よう。

毎日の事がくしくみけてゐますわね。
寒さに打勝つて頑張るゆふやう。

十二月十七日 検

十二月二十七日

今日は第一日目の授業だった。地理しかやらなかつた。
日記を書いてから算数をした。火鉢に當つてゐたので
なめなめはかどうなかつた。井内先生に西洋文學標を
読んでいただいた。
お書き食がすんでからすぐ寮へ歸つた。日記が書け
てしまつたので、こたつに當りのんびりとしてゐた。他に
勉強をしてゐる人もあつた。國史も少しした。夕食の時
めつをとさばがあつて私はめつをたつた。味噌煮でと
てもおいしかった。夜寮へ歸つてから、すぐ火をこして
こたつにした。さうしてかうちへ葉書を書いた。前田寮
だけである。福袋のこたつやうな事を知らせした。
書いてゐる途中に、下の方がいらして、お客様ですわ。
先生らしいです。とあつたので、さうだったらいけ。でも
し違つてゐたらいやだなあと思つた。幾木先生が、下へい

西太美へ三都六年は京太美へいろいろな物を取りに行
行った。雪が降ってぬるので、外はうを着頭布をかぶつ
福光殿の車を一たいおめりして廣瀬村へ向った。

始めはすつと男子が車を引いて一本松を少し行った所
から、女子の六人こころたいした、あつれが前から降りこ
で防笠頭布をかぶつておてもどんじんはいつて来て困つてま
った。思ったより近つた道に車を置き四人に番を上げ

もちつて、私達はほむるさんのおうちへ島道へ行った。

牛やぶたが居た。牛が私達の方を見つぬたら、喜門先生が

「いふも今日おれたちの仲間
を食ふぞ」と言つてにらんで
おるよ」とあつてたのでお
かしくなつてゐた。

晝食の前に歸つて、晝館
で火鉢に當つて晝食を待った。

喜門先生が「おつたやう
にお大根と岩丸先生のお工
産の牛肉と、ぬぎのお煮付

だった。すきやきめたいで、とてもおいしかった。

午後は昨日のやうに、一ばんえつらん屋に居た。ストーブの

そばで、フクちゃんあまん画を見たり日記をつけた。

夕食は岩丸先生のせんべい祝ひで、白米の御飯。



夕食は岩丸先生のせんぐわい祝ひで・白米の御飯
にわかや大根やさといものお煮付でとてもおいしかった。

最後ももうさんときりたよい日記帳が出来
たーいね 来ーから疎開の日記 といふ
よー記念になませう
字もーいー人とおすかーいどきどきー
ー野芝うみかろー

